

氏名	小栗栖 和 郎
学位(専攻分野)	博 士(医 学)
学位授与番号	博 乙 第 2488 号
学位授与の日付	平成 4 年 9 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)
学位論文題目	遅発型気道反応におけるIgGサブクラス抗体に関する研究 第 1 編 血清中抗原特異的IgGサブクラス抗体と遅発型気道反応 の関連について 第 2 編 気管支肺胞洗浄液中抗原特異的IgGサブクラス抗体と遅 発型気道反応の関連について
論文審査委員	教授 中山 睿一 教授 太田 善介 教授 辻 孝夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

非アトピー型喘息や中高年発症型難治性喘息の機序にIgG抗体やリンパ球の関与が想定されているが、各病型の発作モデルと考えられる遅発型気道反応(LAR)と血清抗原特異的IgE及び血清、気管支肺胞洗浄液(BALF)中IgGサブクラス抗体との関連性を検討するため、ハウスダスト・ダニあるいはカンジダ喘息患者の血清及びBALF中抗原特異的IgG抗体とそのサブクラスを測定するためのavidin-biotin ELISA法を確立した。その結果、気管支喘息では健常人に比し血清及びBALF中抗原特異的総IgG、IgG1抗体が有意に高値であった。また健常人の血清及びBALF中抗原特異的IgG1抗体価により、気管支喘息群をIgG1抗体高値群(A群)とIgG1抗体非高値群(B群)に分類して検討したところ、A群の二相性気道反応(DAR)を含めたLAR症例はB群に比して有意に高率であった。LAR群では血清及びBALF中抗原特異的総IgG、IgG1抗体が即時型気道反応(IAR)または無反応(NR)群に比し有意に高値を示した。さらにハウスダストでLARを呈した群では抗原特異的総IgG、IgG1抗体の分泌係数(RCE)がIAR群よりも有意に高値を示し、さらに1.0よりも高値であり、これらの抗体産生が肺局所で亢進していることが示唆された。カンジダのLAR群ではRCEは1.0前後でハウスダストに比し低値を示し、肺以外の他臓器での産生を伴うことが推定された。一方血清中抗原特異的IgE抗体については、LAR症例は低値をとる傾向があった。以上、LAR群ではBALF中抗原特異的IgG1抗体が高値を示し、肺局所でこれらの抗体産生が亢進しており、LARの発症機序に重要な役割を担って

いることが示唆された。

論文審査の結果の要旨

本研究は、気管支喘息の病因を臨床的に検討したものであるが、遅発型気道反応についてIgG1との関連を示唆している。さらに、気管支肺胞洗浄液中の抗体についても検討を加え、ハウスダスト抗原の場合には、肺局所でのIgG1の産生亢進があることを明らかにした。これらの成績は、重症あるいは難治性喘息の発症機序に関わるアレルギー反応について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認めます。